

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書



施設番号	660753
施設名	キッズタウンうきま保育園
施設所在地	北区浮間5-13-1
法人名	社会福祉法人こうほうえん

## 1. 活動のテーマ

<テーマ> 科学

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)  
5歳児になると、日常的な園生活の中にある環境に興味をもったり考えたりする機会が増える。例えば、外遊び中に自分の影の大きさの違い、季節によって水の温度がちがうことや日が落ちるスピードの違いなどである。子どもたちのふとした気づきや発見に保育者が興味をもち、一緒に考える機会をもつことで探求心や想像力を育みたいと考えた。

## 2. 活動スケジュール

子どもたちの素朴な発見をより深められるよう、学研の「かがくタイム」を導入。講師が毎回様々なテーマ(磁石、鏡、空気、目・・・など)に沿って体験型の学びをさせてくれる。「かがくタイム」で得た発見や気づきを日常の園生活の中で取り入れたり発見したりする姿を大切にしていく。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

「かがくタイム」のテーマに合わせて、鏡や画用紙、段ボールなど学研の講師とともに準備をする。また、園児が座るテーブルの配置などもそれに合わせて工夫をする。

## 4. 探究活動の実践

<活動の内容>

7/9 テーマ「目」

○目の見え方の不思議を体験しよう

→目の錯覚により同じものでも見え方が変わること気づく

○いろいろな見え方がするものを体験しよう

→止まっていると、何の絵かわからないものが絵を回すことによってつながって意味のある絵が見えてくる。また、パラパラ漫画のおもしろさに気づく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

○目の錯覚で見え方が違うことについては、「あれ?あれ?」と言いながら何度も繰り返し見たり、友だちと意見を伝え合ったりする姿があった。また、ばらばら漫画をめくったり戻したりして楽しむ姿があった。ばらばら漫画をめくるのが難しい子には手を添えて一緒にスムーズにめくるようにし、ばらばらと絵が変わる様子がよくわかるようにした。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

日常の中には、子どもたちが不思議に思うことや一歩深く考えればもっと楽しめることがたくさんあることがわかった。ちょっとしたしかけや工夫で驚きが倍になることがよくわかった。例えば、鏡を2枚合わせることで見え方が反対側の鏡の奥にいくつも重なって見えたり、角度をつけておくことで1枚の絵が合わさって見えたりと日常の中でできることがたくさんあった。ある子は後日、年下児に「これはどうやって見える?」などと教える姿も見られた。

今回の学びで日常のちょっとしたことを子どもと一緒に不思議に思ったり考えてみたりすることがとても大切であることがわかった。